

～カキの殻剥き専用ロボットアーム導入による生産性の向上と加工コスト削減～

有限会社播磨海洋牧場（兵庫県姫路市）

背景・課題

タイ国における冷凍カキの輸入で、日本産のシェアが増えてきている。しかし、原貝の衛生面に問題があり、通関時に廃棄処分される事例もあることから、陸揚げの段階から衛生面を考慮した安心安全な商品を供給体制を構築する必要がある。また、最近はむき身等の殻剥き商品の需要が高まっているが、殻剥き工程は現状手作業に委ねられており、人手不足等の問題で生産量の頭打ちや加工コストの増大が生じ、他国産との価格差が大きい点で、販売機会や数量が伸び悩んでいる。

取組のポイント

カキの殻剥き専用のロボットアームを導入し、生産性の向上および加工コストの削減を実現させることで価格差を縮め、日本産カキの輸出促進を図る。

取組の成果

新型コロナウイルス感染拡大等の影響により、機器のパーツ搬入に遅れが生じ、当初の導入予定より遅れての稼働になったものの、稼働の結果、従来と比較して約55倍の生産量向上が見られた。本格的な生産及び販売は次年度以降になるものの、継続して製造ライン整備による生産量拡大及び衛生管理の向上、販路拡大に向けての積極的な商談会への出展等に取組んでいくこととしている。

プロジェクトフロー

カキ

原貝の衛生面に問題があり、通関時に廃棄処分される事例もある

製造ライン整備による生産量拡大及び衛生管理の向上につとめていく

播磨海洋牧場

殻剥き工程は現状手作業のため、生産量の頭打ちや加工コストの増大が課題

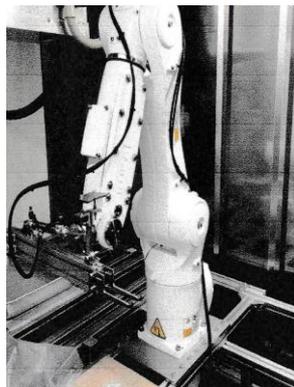
カキの殻剥き専用のロボットアームを導入。生産量が約55倍向上し、加工コストの削減も実現した

タイ等の輸出先

衛生面を考慮した、安心安全な商品を供給してほしい

販路拡大に向け、積極的な商談会への出展等に取組んでいく

小型ロボット



紫外線殺菌装置



パワポ作成年月
(令和2年3月現在)